

# 首都圏の活動に関するイノベーション

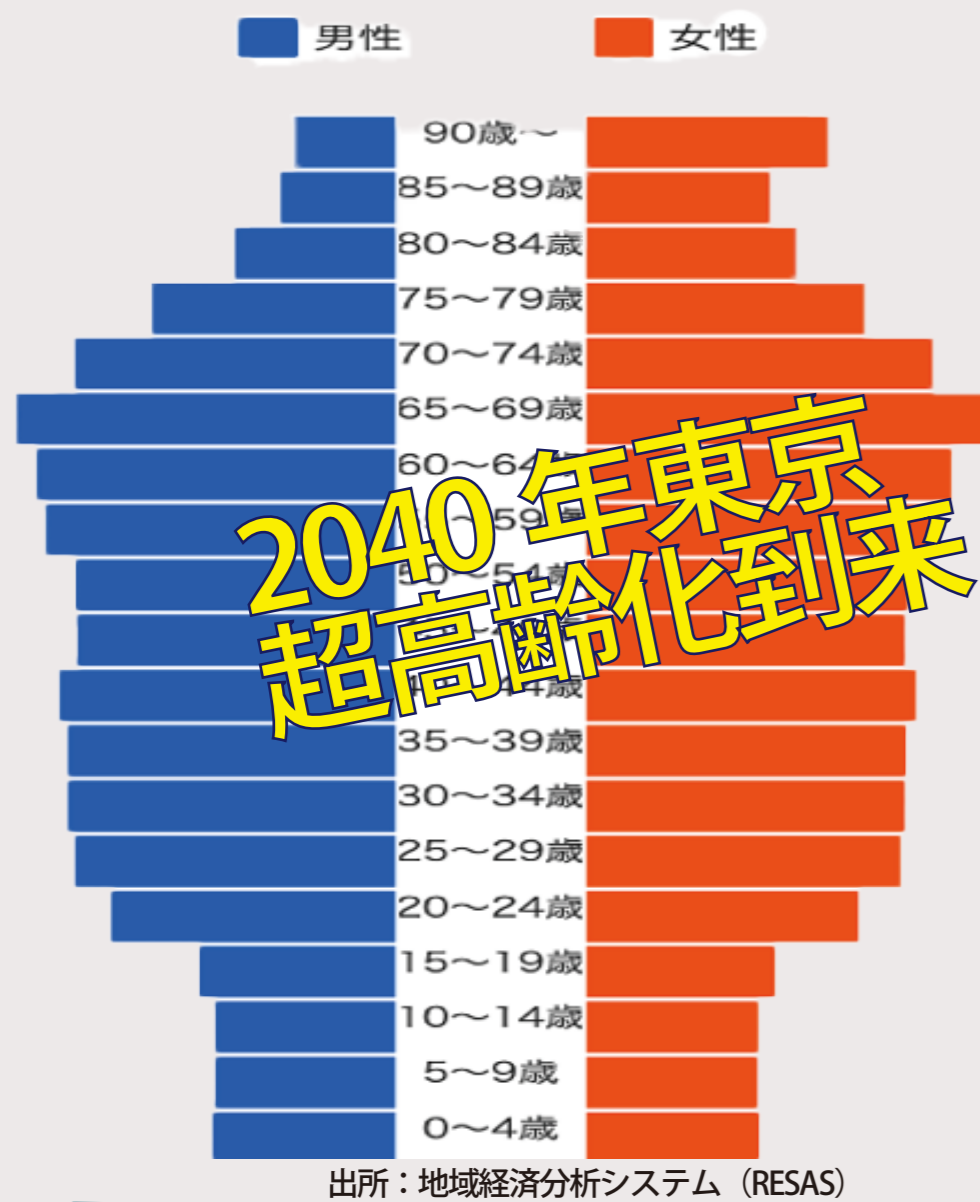
## 気づけばひとりの社縁族を救います chotBot



画像: Adobestock イラスト Canva

### 社会的孤立が問題化

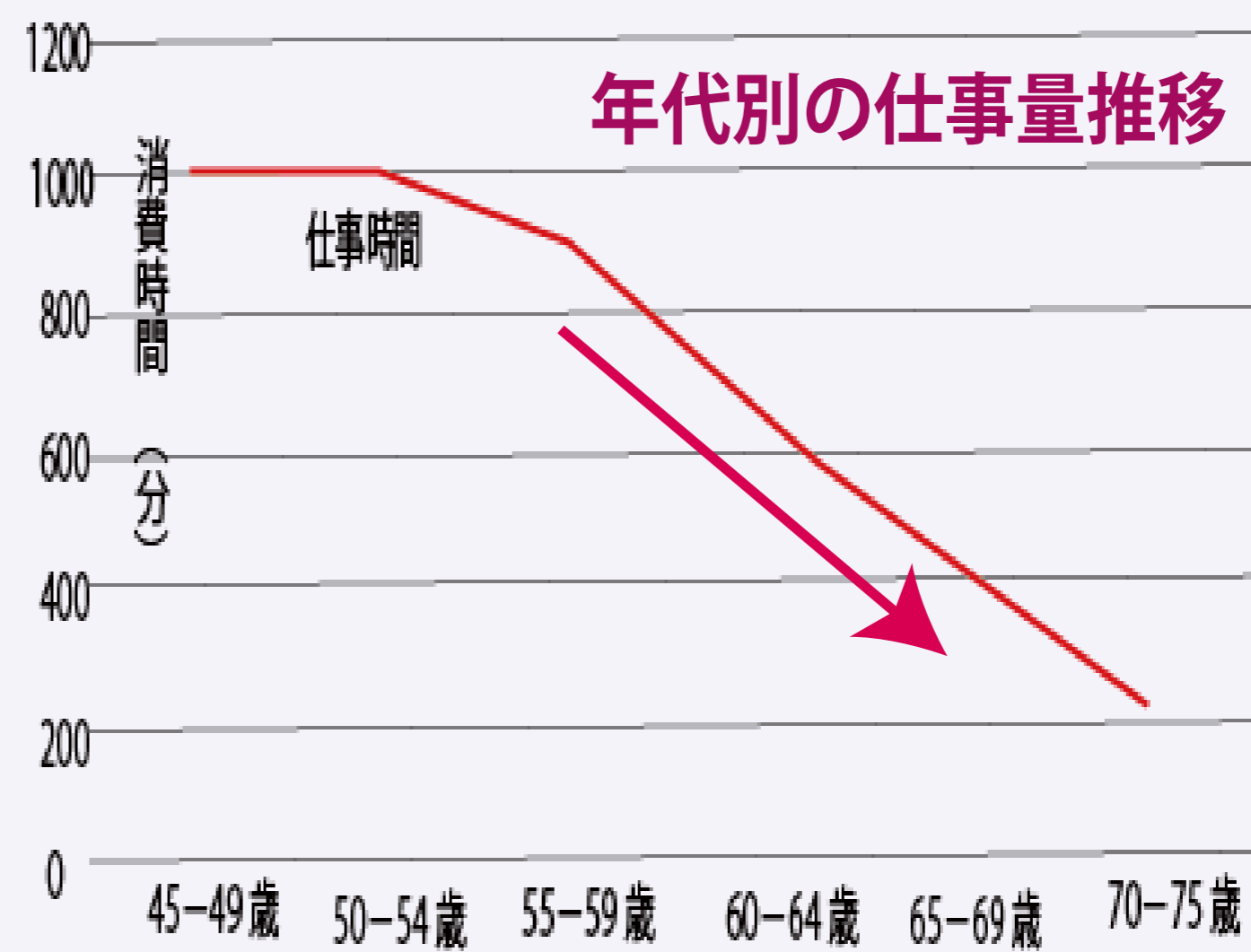
#### 超高齢化時代で孤立リスクが高まる



超高齢化社会を迎え、2040年の東京は高齢者の割合が4割に、現役世代が6割という構成になります。現役を退いた後の人生はさらに延び、単身世帯が増えて、地縁が薄い首都圏では、誰とも話せず誰にも頼れない「社会的孤立」の増加が見込まれています。孤立は、犯罪の増加や幸福度の減少につながるほか、アルツハイマーなど健康上のリスクが指摘されており、早急な予防対策が必要です。

### 孤立予備軍の増加

#### 「社縁族」の定年後に迫る繋がり減少



現代のサラリーマンは、多くの時間を仕事に使い、人間関係の殆どを仕事による繋がりが占めています。しかし、定年などを機に仕事時間が減少してしまうと、人間関係は希薄になり孤立のリスクが高まってしまいます。そのため、仕事人間として働く中年層の孤立予備軍に対して、新たな人間関係の構築を行うことが必要となります。

### 早期アクセスで孤立予防

#### 社会参加につながるコンテンツをちょっずつお勧め



孤立予備軍の社縁族に対して、24時間いつでもどこでもつながっていることで、社会との繋がりをちょっと後押しできる「chotBot」を提案します。このchotBotは、ユーザーの状況変化に応じてちょっずつ社会参加に繋げるコンテンツをお勧めすることで将来の社会的孤立リスクを低減します。



### 今後の展開

#### 孤立予防の先進的プラットフォームに

今回、国内外のステークホルダーと繋がって情報を共有。チャットボットを使ってもらいながら、改善を重ね、人生100年時代の新たなシニアの「居場所・出番」を創出する。



画像: Adobestock